

新たな家畜改良増殖目標（第11次）の検討状況について

－ 乳用牛 －

現状と課題

- ・受胎率が低下し、かつ供用期間も短縮する傾向が続いているため、繁殖性・耐久性についても改良を進め、生涯生産性を高めることが必要。
- ・乳量は着実に増加してきているが、泌乳期間中の乳量の増減変化が小さく、かつ、より長く利用できる乳用牛への改良が必要。
- ・牛群検定の成績やゲノミック評価の結果が有効に活用されていないことから、生産者にとってより経営に有益となる情報を提供する工夫が必要。

新たな改良増殖目標(案)の策定に向けた主な方向性

【能力に関する目標】

生涯生産性を高めるためには、能力と体型をバランス良く改良することが重要。

- ① 乳量
 - ・乳量を増加させる改良の方向性は維持。
- ② 泌乳持続性
 - ・泌乳持続性の高い乳用牛への改良を推進。
- ③ 乳成分
 - ・現在の乳成分率を維持（ただし、乳脂率については継続検討（※））。
- ④ 繁殖性
 - ・長命連産性を向上させるため、肢蹄故障の発生予防や受胎率の改善等、耐久性や繁殖性に重点をおいた改良を推進。
 - ・遺伝率の低い分娩間隔等の繁殖形質についても、ゲノミック評価を活用して改良を推進。
- ⑤ 体型
 - ・体型の大型化を望まないニーズに対応していく必要。
 - ・乳器や体型、搾乳性、気質等について、血統とロボット適合性との関係を調査し、搾乳ロボットへの適合性の高い乳用牛改良を推進。

【能力向上に資する取組】

- ① 牛群検定
 - ・牛群検定の成績やゲノミック評価から得られる情報について、生産者が活用しやすいように提供。
- ② 改良手法
 - ・ゲノミック評価の結果を活用することで能力評価の精度を確保しつつ、必要な候補種雄牛頭数を削減するなど後代検定の効率化を推進。
 - ・暑熱耐性など我が国の飼養環境に適した視点での改良を推進。

※ 今後、継続して意見を聴取する事項等

- 乳脂率の目標数値については、夏季における暑熱の影響を鑑みて下げるべきか、それとも生産者の努力と意欲を促すことを意図して維持するべきか、更に検討が必要。